

健全育成委員会 活動報告

編集・発行 秋田県高等学校PTA連合会 事務局 / 秋田市山王中島町1-1 秋田県生涯学習センター5F Tel 018 (863) 6681 2020年2月



東北地区高P連 令和元年度 健全育成委員

委員長	秋田県	石嶋 勝比古	(秋田県高P連会長 秋田県立能代工業高校)
副委員長	秋田県	館岡 正人	(聖霊女子短大付属高校 佐藤 照男)
副委員長	岩手県	折居 進也	(岩手県立北上翔南高校 小野寺 弘之)
委員	青森県	松澤 充	(青森県立金木高校 岩田 金光)
委員	宮城県	葛岡 雅之	(宮城県石巻好文館高校 岡本 雄一)
委員	山形県	伊賀 正憲	(山形県立南陽高校 飛鳥 康弘)
委員	福島県	高野 幸代	(福島県立小高産業技術高校 湯澤 佳奈子)

() は担当校及び担当者氏名

(育) てたように (成) る

東北地区高P連健全育成委員長 石嶋 勝比古

巻 頭 言



最近の子育ては、何事もあるべき姿(正解)を求めネットからの情報や何とかのトリセツを頼りに子育てをする傾向が見られ、とても危うさを感じます。

親であれば共通の願いとして子どもの健全な成長を望みますが、それぞれの家庭においてその対応は千差万別で正解はありません。

- ・ 子供を過保護に育てると、自主性のない指示待ちの人間になる。
- ・ 放任主義で育てると、やる気を失い人間関係に問題を生じる。
- ・ “あれはダメ、これもダメ”と言っていると、善悪の判断が鈍り否定的な人間になる。
- ・ 他人と比べて育てると、他人を羨み自信のない人間となる。
- ・ 何でも欲しいものを与えて育てると、我慢のできない人間となる。
- ・ 失敗を経験させずに育てると、失敗を恐れて何も挑戦しない積極性のない人間となる。
- ・ 我が子にしか関心を払わないで育てると、思いやりのない自己中心的な人間が育つ。

そして、不思議と親に似て欲しいところ(性格、容姿、人間性など)は似てくれないもので、逆に似て欲しくないところほど良く似るものだとされます。どうしてこのように親の想いとは正反対に成長するのでしょうか。それは出産時に母子とも無事に命を繋いでくれるだけで充分という無欲の想いが、子どもがだんだん成長するに連れ、あらゆる面で期待度が高まり、無意識のうちに子どもを通して親の願望を叶えようとするからです。

折に触れて思い浮かべる言葉があります。

『 アノネ 親は子供を みているつもりだ
けれど 子供はその親を みているんだな
親よりも きれいな よごれない 眼でね 』

(相田みつを)

子どもに対して親の深い愛情が伝われば、それだけで充分です。

健全な育成とは、“大人(親)が懸命(賢明)な姿を魅せてやること” だと思います。

絆を育むPTA活動

青森県



地域に根ざした教育

青森県高P連健全育成委員長 松澤 充

本校がある青森県五所川原市金木町は、太宰治の生誕地であります。今年は太宰治生誕百十周年の節目の年であり、数々のイベントが開催され、本校一年生による太宰小説の朗読会、灯籠作りなども行われました。この地域でしかできない貴重な体験をすることができるのも、日本有数の小説家がこの地で生誕したからこそです。また金木町は津軽三味線発祥の地でもあることから、文化部には「三味線部」があります。校内行事はもちろん、各地域の大会やイベント等に参加するなど活発に活動しています。このように、本校の教育方針であります「地域に根ざした教育」のもと、地元の文化、地域性を活かした学校の教育活動、PTA活動を丸となって行い、生徒が将来誇りに思えるような学生生活を送らせることが、親、さらに先生方の役目ではないかと私は考えております。これからも生徒と地域との「絆」を深め、「地域に根ざした教育」を通して生徒を成長させる教育活動に尽力していきたいと思っております。



◀挨拶運動のコマ

◀高経体社行式後の振舞いとん汁のたぐり

岩手県



PTA活動

岩手県高P連健全育成委員長 折居 進也

今年、北上翔南高等学校は、令和元年に創立100年の節目を迎えました。今年は、10月26日に記念事業、去る9月28日には翔南祭が実施され、友や先生と深い絆を築く事ができ、大成功に終わりました。

子供は学校の教育だけで育てるものではありません。学校と家庭がひとつになり、相互に助け合い、常に情報を交換しながら、よりよい環境づくりに努めて育てていくのが本来の姿だと思っております。

核家族化や少子化が進む中で、諸先輩方から学ぶ子育てや、地域とのふれあいの中で学ぶ子育てなど、色々な関わり方があると思います。

これらの輪の中に学校と家庭が共に手を携えて入っていくことで、子供達がより多くのことを経験できると思います。

北上翔南高校PTA活動として、今年は地域の北上みちのく芸能祭りに初参加、翔南祭への参加をさせて頂きました。

役員の方々と力を合わせ、会員の皆様のご支援とご協力を得て地域の皆様や生徒、先生方と多く触れ合うことが出来ました。

変化の激しい社会で隠せず堂々と生き抜ける人材の育成と、人生の先輩として、是非ともPTA活動をご理解いただき、今後とも何卒ご協力を賜りたくお願い申し上げます。



◀文化祭のコマ

◀市民パレードにも参加しました

宮城県



地域貢献と学校の人気

宮城県高P連健全育成委員長 葛岡 雅之

本校はここ数年入学希望者が多く、昨年は前期入試の倍率が2倍を超え、先生・保護者ともども驚いています。

なぜ、少子化の中で高倍率となったのかを考えてみると、卒業生が地域に残り、地域のリーダーとなっている事例が非常に多いことが分かってきました。地域のイベント・ボランティア活動などに積極的に参加する現役、卒業生が非常に多く、そのことがじわじわと地域へ知られ、評判になっているようです。地域と共にとは、よく言われることですが、地域のお世話になることだけではなく、役に立つことが非常に重要ということだと思います。

PTA活動としてはつきなみですが、あいさつ運動・近隣の大学での体験授業参加なども行っています。何より、保護者があいさつや学習などを楽しく活動する姿を見ることが、子ども達が地域の活動へ興味を持つことのスタートだと思うことにしています。



◀朝のひとえ運動

◀石巻専修大学での特別講義の様子

各県の委員長より日頃の思いなどをお寄せいただきました。



秋田県



奉仕の精神

秋田県高P連健全育成委員長 館岡 正人

本校は県内唯一のミッションスクールです。建学の精神に則り、独自の教育方針で子供たちの成長を見守っています。様々な学校行事がある中で、最も重視しているのが全校生徒による地域奉仕活動です。一年に一日、全校生徒が地域に出かけ、いろいろな施設を訪問して自分たちが出来る、精一杯の奉仕作業をして地域の人たちと交流をして来ます。この様な体験は施設などから喜ばれるだけではなく、生徒一人一人の成長にもつながる事であり、必要とされる人間、とすれば今の若者に形容されがちな「積極性のなさ」、「個性の平均化」等の打破にも通じる行事だと思います。18歳で選挙権を得て、数年後には18歳成人時代を迎える今、学校教育はより人間形成に重点を置き、もっと子供たちに寄り添う教育が大事になると思います。私たちPTAは、より学校と連携を密にし、地域との関係を大事にしなが、子供たちの健全な成長を見守っていきたく思っております。



▶ボランティア活動の準備の一コマ

山形県



家庭と学校とPTA

山形県高P連健全育成委員長 伊賀 正憲

我ら南陽高校では組織改革を行い、PTA役員の役割や取り組むべき活動の見える化を進めました。そのことにより各役員の責任感が以前より増し、積極的に取り組める体制に変わったと実感しています。立哨活動や文化祭の参加人数も増える結果となりました。とりわけ増加したのは、文化祭です。文化祭では生徒と一緒にPTAもブースを出店します。PTA活動で多くの参加者を得られることは、PTA役員同士の仲間意識や連帯感が生まれ、体験したことを家庭に持ち帰って団欒の場で共有できる。PTA活動の本来あるべき姿です。自立に向けた気持ちの変化もあり、親の参加を嫌がる生徒も多いのも事実です。そこは、PTA活動に協力しての参加だと、PTAを口実の一つとして大いに利用してもらい、生徒たちの頑張りを見て頂きたいと思ひます。これからも一つの活動が家庭と学校をつなげる懸け橋となることを期待します。



▶文化祭での一コマ

▶PTAも大忙し

福島県



広がる絆

福島県高P連健全育成委員長 高野 幸代

小高産業技術高校は、開校してから3年という一つの節目の年でもあり、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールのまとめの年でもあります。生徒、先生にとって思い入れ深い年になるのではと思います。今年、復興拠点の小高交流センターができ地域交流の場が増えたことにより生徒会活動、学校行事などを通して絆を広げべく日々努力しています。福島県では、前年度に引き続き高校生の「4+1ない運動」を継続し、「1. 免許を取らない 2. 車を持たない 3. 運転をしない 4. 乗せてもらわない そして保護者は、子供の要求に負けない。」これらと呼ば掛けていこうと思ひます。登校時一声運動、マナーアップ運動についても今後も継続して行い子供達を見守りたいと思ひます。



▶小高交流センターでの販売実習

▶小高駅でのあいさつ運動

令和元年度「登校時一声運動・マナーアップ運動」取組状況

アンケート結果より

東北6県の各校には、令和元年度「登校時一声運動・マナーアップ運動」にご協力いただきありがとうございます。お忙しい中、実施報告を取りまとめいただきました各校の先生及び各県事務局校の先生に感謝申し上げます。

1 実施校

	青 森	岩 手	秋 田	宮 城	山 形	福 島
実施報告校数	63	62	63	65	42	79
対象学校数	85	80	66	81	43	88
実施報告率 (%)	74.1	77.5	95.5	80.2	97.7	89.8
前年度実施報告率	64.0	95.5	95.5	77.8	98.0	82.7

2 実施月（11月以降は実施予定校数）

	青 森	岩 手	秋 田	宮 城	山 形	福 島
4 月	4	0	8	9	7	6
5 月	17	7	12	7	4	8
6 月	19	19	17	15	34	43
7 月	14	8	9	11	6	12
8 月	8	5	7	11	3	10
9 月	17	14	23	16	8	19
10 月	27	42	32	42	30	60
11 月	3	6	7	14	3	17
12 月	1	2	2	4	1	11
1 月	1	0	2	3	2	4
2 月	0	0	3	3	0	2
3 月	0	0	0	1	0	2
通 年	2	1	6	3	2	5

3 実施日数

	青 森	岩 手	秋 田	宮 城	山 形	福 島
1～3日	30	47	30	42	19	45
4～6日	25	11	12	11	16	19
7～9日	4	3	6	3	4	4
10～12日	1	1	3	3	3	6
通年・その他	3	0	12	6	0	5

4 主な実施場所（複数回答）

	青 森	岩 手	秋 田	宮 城	山 形	福 島
校門・昇降口周辺	60	56	53	48	42	75
通学路・学校周辺	13	14	18	14	25	20
駅・地域等	6	5	12	11	15	17
その他	0	0	0	1	0	3

5 実施時間帯

	青 森	岩 手	秋 田	宮 城	山 形	福 島
始業前後のみ	50	61	53	56	34	71
下校時のみ	1	0	2	0	0	1
始業前後・下校時ともに	10	0	6	9	7	6
その他	2	1	2	0	1	1

6 参加人数

	青 森	岩 手	秋 田	宮 城	山 形	福 島
1日あたりの人数	8.8	7.1	4.5	6.6	7.2	7.0

7 その他の協力者の参加（複数回答）

	青 森	岩 手	秋 田	宮 城	山 形	福 島
生徒・生徒会・教職員	33	42	40	35	35	47
教職員のみ	24	16	19	26	9	28
地域・近隣高校・関係機関	2	7	10	5	2	8
その他	0	1	3	2	3	4
単独実施（PTAのみ）	4	4	3	6	4	3

次の感想は、各県に共通した内容等を中心にまとめたものです。

良かった点・生徒

- ・多くの生徒が、声を掛けられる前に元気の良い挨拶をしてくれた。服装も概ね良好だった。
- ・自転車マナーが身についていた。
- ・生徒会が中心となって、ポスター掲示、昼休みの放送、全校集会などの機会を作って実施した。
- ・部活動や委員会活動の生徒の協力が得られた。
- ・大きな声で挨拶している生徒を見ると、先生と生徒の信頼関係がよくできていると思った。

良かった点・保護者

- ・朝の忙しい時間帯だが、健全育成委員会以外にも多くの保護者の協力が得られた。
- ・生徒だけでなく保護者への啓発にもなっている。また、保護者、教員、地域の方の意見交換の機会にもなっているので定期的に行う必要がある。
- ・初め戸惑っていた新入生の保護者も、先輩保護者と参加する中で意欲を高め、次回以降の参加も期待できる。
- ・地区の高校合同で最寄り駅3か所での一声運動が定着している。市長や教育長も参加してくれるのはありがたい。
- ・駅や市立図書館等の協力もあり、公共施設での見回りや利用マナーの指導も行うことができた。
- ・他校の保護者と合同で行うことができ、人数的にも良い規模で運動ができた。

- ・毎日実施しているため、生徒の変化に気づきやすく、早めの対応につながっている。
- ・参加者の複数の目で見ること、通学路上の危険箇所や生徒の通学マナーの問題点を発見することが出来た。
- ・おそろいのジャンパーやのぼりを使用して統一感のある活動ができた。
- ・学校祭に合わせて実施。参加率もよく継続したい。

課題等・生徒

- ・学校関係者以外の一般の方に対するあいさつは見られなかった。
- ・自発的にあいさつができる生徒が少なく、自分からあいさつする習慣をつけたい。全体的にもう少し元気があると良い。
- ・イヤホンやヘッドホンを装着したままや、スマホの操作をしながらなどの歩行及び自転車運転が見られた。
- ・徒歩で登下校する生徒に並列で歩いている姿が見られ、車との接触事故が心配される。

課題等・保護者

- ・始業前の一声運動は、保護者の出勤時間でもあるため参加が難しい状況があるが、今後は総会等で参加を呼び掛けたい。



第2回 健全育成委員会より

インターネット、スマホは、今や無くてはならない便利なコミュニケーションツールですが、その反面、誘い出しによる犯罪被害やいじめ等の危険があることも事実です。

スマホやインターネットの安全な使い方について、高校生はどのように学んでいるのか。第2回健全育成委員会では、「e- ネットキャラバン活動」を通じて学校で行われているインターネットやスマホを安全な使い方の啓発活動の様子を講話していただきました。講師は、仙台応用情報学研究振興財団研究員の小田桐俊治氏です。

「e- ネットキャラバン」は、総務省、文部科学省の支援のもと、ネット依存、ネットいじめ、誘い出し、なりすまし、個人情報漏洩、ネット詐欺、チェーンメール、著作権・肖像権侵害といった内容について子どもたちに危険の実態を正しく知らせ、トラブルを未然に防ぐための啓発活動です。

各県の健全育成委員長や事務局校の先生方から、「専門性の高い方からお話が伺えて勉強になった」「インターネットは便利であるが、使い方を間違えると危険なものに変わる。子どもたちにどのように教えたら良いのか難しい部分もあるため、講話は参考になった」「生徒の身近にある危険がよく分かった。自分はネット関係に疎いが、今回生徒の指導に役立つ知識が得られた」などの感想がありました。



仙台応用情報学研究振興財団
研究員 小田桐 俊治 氏



第3回 健全育成委員会より

第3回委員会研修では、御家業の会社経営はもとより、花火研究家としても広く活躍されている小西亨一郎様から、全国花火競技大会（大曲の花火）の特色や地域資源の重要性、子どもたちの活躍の様子など興味深く示唆に富むお話を伺うことができました。

世界一の花火の街になるために

花火研究家 小西 亨一郎
カネトク卸総合センター(株) 取締役
／ 秋田県立横手高等学校PTA会長



小西 亨一郎氏

令和元年11月29日に、秋田市のカレッジプラザで、東北地区高等学校PTA連合会「第3回健全育成委員会」において、東北各地から参集された委員会メンバーを前に、講演いたしました。「大曲の花火はなぜ世界一といわれているのか？」

～大曲の花火・地域教育と参画教育の実践～というテーマで約70分お話をさせていただきました。

「大曲の花火」は、秋田県が誇る最大の観光資源のひとつであり、毎年全国から70数万人の観光客が訪れる。東北全体を通して、一日あたりの集客数は、ナンバー1。東北最多観光客を誇る「青森ねぶた祭り」が、祭り期間中（8月2日～7日）で約300万人（一日あたり観光客数は50万人）というから、群を抜いている。当然のように「大曲の花火」の経済効果は、フィディア総合研究所の調べでは、155億円といわれており、東北全体に波及効果をもたらしている。

1910年（明治43年）から始まった「大曲の花火」がこれほどまで、付加価値の高い全国花火競技大会として認識されているのか、「世界一の花火大会」といわれているのか、花火研究家として分析してみた。

1. 「内閣総理大臣賞が授与される日本で最も権威のある大会」

日本において、花火大会は数多くあれど、競技大会として「内閣総理大臣賞」が授与される名誉のある大会は、大曲と土浦（茨城県）の二箇所だけ。そのうち、「大曲」はすべての種目（4種目）にフルエントリー。土浦は、3種目中2種目にエントリー。だから、「大曲」は総合力が問われる大会であり、まさしく「KING OF HANABI」を決めるべく大会と認識されているから、最も権威のある大会として位置づけられている。

2. 「日本最強の花火師28人（社）による頂上決戦の場」

大曲の花火は、全国から選ばれた28人の名実ともに優秀な花火師のみが選抜される大会であること。また5年に1回数名の入れ替えがあり、全国的な花火大会や大曲の実績によって選ばれるシビアな選考がなされる。地元といえども、安穩としてられない。

3. 「日本・世界最高難度の高い技術・芸術花火が鑑賞できる」

例えば、芯入割物の部において、一般の大会では絶対に鑑賞できない最高レベルの高い花火のオンパレードだということ。昨年の大会では、五重芯が4社、四

重芯が17社と長難度の高い四重芯以上の多重芯花火が、70%を越えている。五重芯をはじめとする多重芯技術は、世界最高難度の技であり、世界の花火師の羨望の技術である。

4. 「最高の打上げ・観覧環境」

大曲の会場は、雄物川をはさみ、打上げ会場と観覧会場が数キロに及び平行直線にあり、全国屈指の好条件の環境である。観覧会場には、1.6キロに及び桟敷が設営されている。

5. 「日本の花火大会の中で最高規模の予算」

大曲の花火の桟敷席は、プラチナチケットと呼ばれ、毎年即売する。その金額は、年間スポンサー金額もプラスすると、ほぼ8億円。日本における最高予算規模の大会と呼べる所以なのだ。

6. 「日本で唯一の昼花火の競技。伝統技の継承」

今では、日本国内で開催される「昼花火」の競技大会は、大曲だけ。江戸時代ののろしから伝わる伝統技法の継承として、唯一無二の大会として存在価値が上がる。

7. 「世界最大級の飲み食い祭り」

一日で70数万人の観光客が訪れることによって、食や飲料の消費量は破格。その経済効果は、東北中に波及する。

以上「大曲の花火」が世界一といわれる理由であろう。大曲の花火は、この通り付加価値の高い大会であり、世界から注目される大会へと発展していくものと思われる。今、大曲の花火実行委員会では、「世界一の花火の街」を目指した活動を企画されている。「世界花火競技大会」や世界の花火都市との交流などだ。

こうした世界に誇れる「花火の街」という財産を、将来を担う子供たちに伝えていかなければならない。大曲地区の小学校では、4年生のときに「花火授業」を通して「大曲の花火」を研究するふるさと学習が行われている。花火師や花火に関わる人たちの話を聞き、花火工場見学や花火文化継承資料館「はなび・アム」見学などを通して、「大曲の花火」を深く学ぶ。ふるさと大曲の財産である「大曲の花火」を体系的に学ぶ機会を創出している。これらは、子供たちにとって、『世界に誇れる郷土』であることを認識するとともに、ふるさと愛に繋がる。

また、昨年「大曲の花火」において、小学生・中学生・高校生が案内ボランティアとして登録し、全国から訪れる観光客に、会場内で「大曲の花火おもてなし隊」として対応している。こちらは、自分の言葉で説明や案内することで、大曲人としての誇りを持ち、自慢できる郷土の担い手として育成していくことも兼ねている。

「大曲の花火」が未来永劫に、世界の花火のトップランナーとして走り続けるために、子供たちをも巻き込んで、「世界一の花火の街づくり」に着手していく。輝ける未来のために。

編集後記

「登校時一声・マナーアップ運動」「各県健全育成委員長の日頃の思い」「委員会研修の様子」をもとに本リーフレットを編集しました。東北各県の一声運動の様子や健全育成委員会活動の一端をご理解いただければ幸いです。

各県の学校PTAの保護者や先生方には、お忙しい中「一声運動」の実施及び報告などでお世話になりました。ありがとうございます。

令和元年度東北地区高P連健全育成委員一同